幼　児　教　育　保　育　指　導　案

令和２年10月　３歳児　指導者　村上　由紀恵

１　研究に関連する本日のねらい

○教師や友達と一緒に伸び伸びと体を動かして遊ぶようになる。

２　幼稚園教育要領上の位置付け

心身の健康に関する領域「健康」

〔健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。〕

１　ねらい

(1)明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。

２　内容

(1)先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。

(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。

(3)進んで戸外で遊ぶ。

(4)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

３　研究との関わり

幼児のよさや可能性の見取りとそれを生かす環境の構成を通して、学年間の接続を意識した３歳児保育において、安心感をもって自己発揮する幼児を育てることを目指す。

そのために、次のような手立てを講じる。

【保育改善に向けた手立て】

①職員や家庭等との情報共有と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（以下「10 の姿」）を視点にした、幼児のよさや可能性の見取り

②幼児理解に基づいた幼児のよさや可能性を生かす環境の構成

【具体的な手立て】

○学年間の連携を図れるように、幼児一人一人の興味・関心や発達の様子を捉え、教師間で情報交換をこまめに行う。

○幼児理解に基づいた幼児のよさや可能性の見取りができるように、保護者に幼児の園での姿を伝えつつ、家庭において保護者から見た幼児の育っている点などを聞き、情報交換を行う。

○「10の姿」を視点に幼児のよさや可能性を見取る。

○幼児が安心して自分の好きな遊びに取り組めるように、見取ったよさや可能性を基に遊びに必要な遊具や用具、様々な素材を準備したり、場をつくったり、必要に応じて援助したりする。

４　指導計画

(1)　研究に関わる３歳児の教育計画

期	１期		２期		３期			４期		５期		
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
発達の過程	・園生活に慣れる時期 ・教師に親しみの気持ちをもち、安心して過ごす時期				・いろいろな遊びに興味をもち、教師や友達と遊びを楽しむ時期					・安心して過ごす中で、自分の思いを出して遊ぶ時期		
テーマに関係する幼児の姿	・園の生活を覚え、教師と一緒に好きな遊びを楽しみ、喜んで登園する。 ・友達の遊ぶ様子を見て、まねをして遊ぶ。				・教師や友達と一緒に、伸び伸びと体を動かして遊ぶ。 ・遊びの中で使いたい物を教師に要求したり、自分で見付けようとしたりする。					・自分の考えや思いを言葉や態度で友達と伝え合いながら遊び、互いの気持ちに気付く。		

研究に関係するねらい及び内容	○幼稚園や教師に親しみの気持ちをもち、安心して過ごすようになる。 ・教師や友達と一緒に好きな遊びをする。	○自分の好きな遊びや友達のしている遊びなど、いろいろな遊びに興味をもつようになる。 ・同じ物を作ったり作ってもらったり、まねたり、誘い合ったりし、同じ場で友達と関わって遊ぶ。	○自分の思ったことや感じたことを自分なりに表現するようになる。 ・友達に自分の思いや考えを伝えようとする。

(2)　前週の幼児の姿から捉えた発達（男児11名　女児９名　計20名）

○園のグラウンドで４、５歳児がかけっこをしていたので、３歳児全員で行ってその様子を参観した。４、５歳児は順番に並んで待ち、スタートラインに４人ずつ並んで走っていた。M児は、これまで自分の番が終わっても何回も繰り返し走っていたが、４、５歳児の様子を見た後は、順番に並び、１番最初に走り、その後は、友達が走るのを見て待っていた。かけっこは、５歳児がゴールテープの係をして、４、５歳児がみんなで応援してくれた。運動会に近い雰囲気の中でかけっこを行った。

○親子遠足で牧場に行った。動物の餌やりや触れ合いをしているときに、K児はM児と一緒に行動していた。M児が乗馬をすることになり、それを見ていたK児は「M児ちゃんなんか・・、ばか」と言い、母親にくっついてM児が馬に乗る姿を見ていた。K児の気持ちを察した母親は「乗りたいんだよね。乗れるの？」と聞いた。K児は「うん！」と大きく頷き、緊張した表情で一人で馬に乗った。教師は馬に乗っている様子を母親と一緒に見ながらK児が一人で乗れたことを共に喜んだ。一周して到着すると「よかったね」と母親は笑顔で迎え、K児は最後に馬を優しく撫でた。

○A児、C児、F児、Q児、T児は、ビニールやペットボトルに、朝顔やキンモクセイの花を摘んで色水作りをしていた。F児は、葉をたくさん摘んで入れ、緑色の野菜ジュースのようにした。教師を見付けると「見て」と大事そうに持っていた色水を見せた。教師は「わあ、F児ちゃんのは緑色だね。野菜ジュースみたい」と言うとF児は振って見せ、一緒にいたQ児が「葉っぱ、いっぱい入れたんだよね」と言った。A児はキンモクセイがたくさん入ったオレンジ色の色水をずっと離さずに持って遊んでいた。一緒に遊んでいたM児に色水を見せると、M児は「かわいいね」と言った。A児は「やったー！」と飛び跳ねて喜んだ。その後も色水を持って笑顔で、M児とかけっこをして遊んだ。

○N児はいつもの表情と違って園庭を一人で歩いていた。教師は「N児ちゃん、一緒に遊ぼうか？何にして遊ぶ？」と声を掛けた。N児は「あぶくたった！」と笑顔で言った。教師は「お友達も誘ってみようか。捜しに行こう」と、N児と手をつなぎ捜し始めた。すると、今週になって遊びの前に鬼を決める「鬼決め」をしたがっていたG児が一人でいた。教師が「G児ちゃん、鬼決めしてあぶくたったを一緒にやる？」と聞くと、返事をせずに笑いながら逃げ出した。教師が追いかけるとG児は更に喜んで逃げる。それを見たN児も一緒に追いかけて、次第にG児とN児の追いかけっこになった。G児は嬉しそうに逃げ、N児もニコニコしながら追いかけた。教師は二人が追いかけっこして遊ぶ姿を見守った。

○教師が園庭にいると、ブランコから降りたD児が「スケーター乗りたい」と言ってきた。D児は今まであまりスケーターに乗らなかった。園庭に置いてあった赤いスケーターを見付け乗り出そうとしたとき、B児も来て横からスケーターに乗り込み、行こうとした。教師が「D児ちゃんが乗るところだったみたいだよ」と伝えるとB児は、すぐに、「はい」とD児にスケーターを渡した。D児が「ありがとう」というと、B児は「はい！」と答えた。その後、すぐにB児はテラスからベンチを運んできた。教師は「あっ、そうだね。よく気が付いたね。乗り場にするんだね。次に代わってもらいたいよね。ここで待ってようね」と言うと、B児はベンチに座って順番を待った。ゆっくりだが一生懸命乗っているD児の姿を、B児はにこやかに見ていた。

このように、かけっこの場面では、「10の姿」(4)道徳性・規範意識の芽生えの視点で見ると、これまでM児は走りたい気持ちのままに繰り返し走り、順番に走るということまで気持ちが向けられていなかったが、この日は、３歳児だけでするかけっこと違って、４、５歳児の姿を見たことによって運動会の

雰囲気を感じ取り、運動会のかけっこのやり方を理解したので、順番を守って走ったり、応援したり、待ったりすることができるようになったと考える。

牧場での親子遠足では、「10の姿」(2)自立心の視点で見ると、これまであまり自分の思いを出さず、おとなしかったK児が、自分なりの言葉で馬に乗りたい気持ちを表出し、結果、一人で馬に乗れたことから、K児の成長を感じた。また、K児の保護者には、２学期になって、K児が教師や友達に自分の思いとは裏腹なことを言うようになってきたことを伝えていた。園や家庭での姿の共有ができていたから、K児が「M児ちゃんなんか・・、ばか」と言ったとき、馬に乗りたいというK児の思いを保護者が察し、K児の思いを満たすことができたと考える。「10の姿」(7)自然との関わり・生命尊重の視点で見ると、園にはない自然や動植物に親子で関わったことで、K児の「馬に乗りたい」という思いにつながったと考える。

色水作りでは、「10の姿」(7)自然との関わり・生命の尊重の視点で見ると、朝顔やキンモクセイの花を水に入れることで水の色が変化することを不思議に思ったり、「どんな色になるだろう」とワクワクしながら色が変わるのを待っている期待感などを抱いたりして、遊びを楽しんでいると捉えた。F児の色水は水自体は緑色にならないものだったが、ペットボトルにたくさんの葉を立てて入れたことで、緑色の水のように鮮やかな綺麗な色に見えた。毎日の遊びの中で、様々な自然物を組み合わせ、自分だけの色水を作ることができた喜びを感じていたと考える。また、A児はキンモクセイの小さい花を入れて作った色水に感動したり、不思議さを感じたりしたからこそ、その後も色水を大事に持って遊んでいたのだろう。A児は、前々週までは登園を渋り休みがちだったが、一緒に遊んでいたM児に「かわいいね」と言ってもらい、認めてもらったことで、嬉しい気持ちを素直に表現できた。「10の姿」(1)健康な心と体の視点で見ると、A児は園の自然や人との関わりを通して、安心して園生活を送れるようになったと考える。

N児の姿を「10の姿」(1)健康な心と体の視点で見ると、日頃からきっかけがないと自分から友達がしている遊びに入っていけず、一人で固定遊具などで遊んでいることが多いのは、不安があるからではないかと考えた。そこで教師がN児と手をつなぐというスキンシップを取ったこと、また、遊ぶ友達を一緒に探したことで、N児は安心した気持ちになり、その後は、笑顔で伸び伸びと自分を出して遊べるようになったと考える。「10の姿」(9)言葉による伝え合いの視点から見ると、N児が自分の思いを言葉で伝え、自分から友達のしている遊びに入っていくなどできるように、今後もこのような援助を続け、N児が安心して自己を発揮できるようにしたい。

D児は、ブランコに一人で乗れるようになってから、毎日「押さないで」と言いつつ自分で加減しながらブランコに乗ることを楽しんでいた。「10の姿」(1)健康な心と身体と視点から見ると、自分でできるようになった喜びや、体を動かして遊ぶ気持ちよさを感じていると捉えた。この日、初めて自分から「スケーターに乗りたい」と言ってきたことは、「10の姿」(2)自立心の視点で見ると、ブランコを自分の力でこぐことを十分に行い満足したことで、新たな遊びに気持ちが向かったと考える。また、スケーターの順番を譲り、ベンチを持ってきて乗り場を作ったB児の姿は、「10の姿」(9)協同性の視点から見ると、共通の目的に向けてアイディアを出し、一緒に遊ぶことができるように行動するというよさを発揮した場面であったと捉えた。

(3)　週案　３期　第８週　10月12日（月）～10月16日（金）

①　研究に関わる週のねらい

〇自分の好きな遊びや友達のしている遊びなど、いろいろな遊びに興味をもつようになる。

〇教師や友達と一緒に伸び伸びと体を動かして遊ぶようになる。

②　研究に関わる週の内容

・友達のすることを見たり、まねしたりしながら一緒に遊ぼうとする。

・友達や教師と、体操やかけっこなどを通して体を動かすことを楽しむ。

・いろいろな遊具や用具に興味をもち、遊んでみようとする。

③　今週の環境の構成の視点

○友達のすることを見たり、まねしたりしながら一緒に遊ぼうとするための環境の構成

・友達のしている遊びに教師も一緒に参加したり、楽しさを伝えりしながら興味や関心を向けられるようにする。また、複数人で同じ遊びが楽しめるように必要な遊具や用具の準備をしておく。

○友達や教師と体操やかけっこなどを通して体を動かすことを楽しむための環境の構成

・事前に活動の内容を他学年の教師と確認し合い、年齢に合わせて無理なく活動が進められるように配慮する。

・異年齢児と一緒に遊べるように、体操や遊戯の曲などを準備したり、必要な遊具や用具はすぐに出せるように近くに準備しておく。

○いろいろな遊具や用具に興味をもち、遊んでみようとするための環境の構成

・雲梯やジャングルジム、土山等の固定遊具やいろいろな遊具を使った遊びに挑戦する姿を見守り、認め、励ましながら、必要に応じて教師も一緒に関わり、挑戦した喜びを共感できるようにする。

④　幼児を見取るための準備や見取りのポイント

●「10 の姿」を視点に、幼児のよさや可能性を見取る。

●幼児一人一人の成長の様子を観察し、見取った幼児のよさや可能性を職員間で共有しておく。

●降園後に他学年の教師と幼児の姿や遊び等の情報交換を行い、学年間の連携を図る。

●幼児の内面の理解に必要な情報を保護者に聞き、家庭での様子を把握しておく。

5　日案　　10月15日（木曜日）　　８：30～14：00

ねらい	○教師や友達と一緒に伸び伸びと体を動かして遊ぶようになる。
内　容	・友達のすることを見たり、まねしたりしながら一緒に遊ぼうとする。 ・友達や教師と体操やかけっこなどを通して体を動かすことを楽しむ。 ・いろいろな遊具や用具に興味をもち、遊んでみようとする。

時刻（目安）	◎環境の構成　☆予想される幼児の姿　●環境の再構成や援助
8:30～登園	所持品の始末をする。トイレを済ませる。
9:15～ 園全体での活動	◎グラウンドにテントを出して、椅子（またはベンチ）を運んでおく。 ☆Ｂ児、Ｆ児、M児、Ｓ児は進んでグラウンドに集まっていくだろう。A児、G児、H児は活動に慣れるまでは、教師を待ってから一緒に行こうとするかもしれない。 ●グラウンドに行くことに不安な幼児には、手をつないだり、話し掛けたり、誘ったりするなど、個々に応じて関わりをもつようにする。 ●活動への期待がもてるように「荷物の片付けが全部終わったら、トイレに行って、グラウンドに遊びに行ってみよう」「かけっこが始まるかな」など声を掛ける。
	◎ポールを並べてクラスで並ぶときの目安を付けておく。 ☆曲に合わせて体を動かして喜んで体操するだろう。中には、恥ずかしがって立っている幼児や動きが小さい幼児がいるかもしれない。 ●不安そうにしている幼児には声を掛け、隣で教師も一緒に踊る。 ◎年齢ごとに走る距離を調整し、スタートとゴールを示しておく。 ☆Ｂ児は走る楽しさを味わうだろう。M児はもっと走りたいと言うかもしれない。 ●「もっと走りたい」と言う幼児には「給食を食べてからまたかけっこしようね」と声を掛ける。また、他学年の教師と連携をとりながら、約束や順番を守り安全に活動するように個々に配慮する。

	◎親子競技に使う遊具（トンネルやミニコーン、乗り物など）を配置しコースを作る。 ５歳児に親の役になって迎えに来てもらうように、事前に５歳児担任と打ち合わせておく。 ☆５歳児が手をつないでくれるのを喜んで待っているだろう。Ｆ児、Ｈ児は教師と一緒がいいと言うかもしれない。 ●３歳児が今まで遊びの中で使ってきた用具を使い、コースを設定をする。 ●教師と一緒がいいと言う幼児には、教師が組んで一緒に参加するようにする。 ●休息後は思い思いに遊ぶことを伝え、次の活動を楽しみにするように声を掛ける。
10:15～ 思い思いに遊ぶ	☆園庭に移動するとグラウンドでしたことの続きをするだろう。 ☆好きな遊びをする幼児もいるかもしれない。 ●園庭にもグラウンドで使用したものと同じような用具を出しておく。 ☆中には教師より先に園庭に行こうとする幼児もいるかもしれない。 ●補助教諭と連携をとりながら、必ず園庭の幼児にも目を向けられるように教師も移動して、遊びへの移行を見守り、次への遊びにスムーズに入っていけるように配慮する。
11:00～ 学級での活動	片付ける。 歌を歌ったり手遊びをしたりする。
11:30～給食	給食の準備をする。給食を食べる。食休みをとる。
12:50～ 思い思いに遊ぶ	◎必要に応じて遊びに必要な遊具、用具を整える。 ☆M児やＩ児はグラウンドに行って走りたいと言うかもしれない。 ●４、５歳児がグラウンドに行って遊んでいるときには、その時間にM児やＩ児にも一緒に遊びに入っていいかどうかを確認し、M児自身にも他学年の教師に聞いてみるように伝える。また、他学年が使っていないときは、教師が一緒にかけっこをする。 ☆スケーターに乗りたいと言う幼児が取り合いになるかもしれない。 ●交代できるように、ベンチなどを置いて順番に座って待てるようにする。
13:20～ 降園準備 学級での活動	片付けをして、降園準備をする。 手遊びをしたり、歌を歌ったり、絵本を見たりする。 ◎今日の遊びの振り返りの場を設定する。 ☆今日遊んだことを話し合うと「また、やりたい」と言う幼児がいるだろう。 ●一人一人のよい部分を伝えながら、取り組んだ楽しさや嬉しさを共感できるようにする。また、見ていた幼児には「明日も応援してあげようね」と伝え、みんなといる楽しさを感じたり、友達のやることに興味をもったりできるようにする。
14:00　降園	
反省・評価の観点	・友達のすることを見たり、まねしたりしながら一緒に遊ぼうとする姿が見られたか。 ・友達や教師と体操やかけっこなどを通して体を動かすことを楽しんでいたか。 ・いろいろな遊具や用具に興味をもち、遊んでみようとしていたか。 ・「10の姿」を念頭に置いて、幼児の姿の見取りができたか。 ・幼児のよさや可能性を生かす環境の構成や再構成をし、援助ができたか。 ・教師間で情報の共有をすることができたか。